＜行事報告＞

移情閣まつり2018・交流会

10月7日（日）於　移情閣

コーラス

ウクレレ演奏

詩吟　中島紫峡氏

フルス演奏・二重唱

漢詩朗唱・オカリナ演奏

二胡演奏

囲碁交流戦

参加者は126名、盛会裏に終えることができました。友の会や同好会の活動紹介を廊下に展示。プログラムは張文乃先生の指揮で美しい歌声を披露したコーラスに始まり、公開文化講座、ウクレレ演奏、詩吟、フルス演奏、二重唱、オカリナ演奏と漢詩朗唱と続き、それぞれ見事な演奏や絶妙なコラボを披露した。最終演目の二胡演奏での鳴尾牧子さんの馬のいななき音、疾走する音の表現は秀逸であった。2階講義室では囲碁同好会と中華同文学校校友会が交流戦を開催した。

文化講座は、古典から学ぶ中国書法講座講師魚住和晃先生と漢字講座講師見方須賀子さんが講演。また、交流会として、兵庫県立鈴蘭台高校中野貞弘先生と中国語履修生が中国語で歌を披露のあと、孫文記念館を見学された。

移情閣まつりの1日、中国の文化と音楽を通じて地域や若い世代との交流を深めることができました。このような民間レベルでの文化交流を深めることにより日・中・台のつながりを一層強固なものにしていきたいと思います。

公開文化講座①　演題:「再興されていた顔真卿墓」

講師:魚住　卿山(和晃)氏　(神戸大学名誉教授)

魚住　卿山さん

中国書法研究者である魚住卿山氏は、神戸舞子学院で古典で学ぶ中国書法講座の講師であり、魚住和晃(神戸大学名誉教授)として「書聖 王羲之ーその謎を解く」(岩波書店)、「マンガ書の歴史(全三巻)」(講談社)等多くの著述を出版されている。講演は40分程度という限られた時間であったが、はるか千三百年も前の、唐の顔真卿の偉業を知る機会になった。

魚住先生はいずれこの「顔真卿墓」について、何らかの形で著されると思うが、今回、来年一月に上野の東京国立博物館で開催される特別展「顔真卿―王羲之を超えた名筆―」のチラシを関連資料と一緒に配られた。日本初公開、台北にある故宮博物館から顔真卿の真跡である「祭姪文稿」がやって来る。何という時宜を得た講演であるかと思った。

振り返ってみると舞子学院のツアーで昨年4月14日に「顔真卿墓」を日本人として初めて訪問する幸運に恵まれたことは、記念すべき出来事であった。山東省臨沂県方城鎮という村にある墓は、中国共産党の許可を必要とし、村人たちですら中に入って見学することができなかったのである。このときは、地元人民政府の特別の計らいで我々一行と共に仲良く写真に納まっていが・・・。

いくつかの碑の一つに「重修顔林記」があって、以下のようなことが記されている。魯にあった顔盛が、三國魏の時代の青徐二州刺史を務めていた時に本籍を琅邪臨沂に移したこと。また、顔之推より顔氏が長安で活躍するようになったこと。さらには盛唐の開元の治で知られる六代皇帝玄宗の晩年は、楊貴妃に心を奪われ、政治を省みなくなり、安録山・史思明の乱が起こったが、平原太守であった顔真卿は姪の顔杲卿と共に闘い、唐王朝の存続に大きく寄与した。北宋になって、顔真卿は改めて高い評価が与えられるようになり、顔真卿墓は国家行事として祭祀されるようになった。しかしながら、文化大革命では、顔氏墓は完全に毀されてしまった。そして、1997年9月20日に再び修復されたのが、現在の「顔林」である。

最後に、現在の日本では、書の位置付けが低下している観がある。しかし中国では「漢字文化」が熱狂的ともいえるほど盛況であり、中国の人の書の古典に対する尊敬の念は、絶大なものがある。古典や「書」を勉強することによって、辛抱強くなり、行儀がよくなる等の文化的意義も強調されている。

（古典で学ぶ中国書法講座世話人 増田　勝代 記）

公開文化講座②　演題:「漢字でアンチエイジング」～日本人と漢字～

講師:見方 須賀子さん（立命館大学白川静記念東洋文学文化研究所認定　漢字教育士）

見方 須賀子さん

移情閣まつり「漢字でアンチエイジング」を聴講して頂きありがとうございました。「漢字を学ぶ者として中国の歴史や文化を知らないで漢字を知っているとは言えません」これは立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所の当時の所長加地伸行先生の言葉です。

日本人は中国から輸入した「漢字」を現在では「ひらがな」「カタカナ」を交えて文を描き「音」でしかなかった漢字に「訓」を加え、漢字一文字で多くの意味を成すという日本人の文化として漢字を成立させてきました。

今年の漢字「災」一文字で一年を振り返ることができます。「平成」は、「内平かにして外成る」。家庭での平和を世界にも及ぼすようにという願いが込められています。

漢字は日本人の心を豊かにする中国からの産物なのです。「漢字でアンチエイジング」も12月で一年を迎えました。私と漢字を学ぶ同志の皆様へ感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

公開文化講座を聞いて　古典で学ぶ中国書法講座では、中国の書道を大切にする姿勢や日本の書道の実情について、学ぶ姿勢、取り組む気持ちは、文化や生活への影響が大きいと知った。また、2番目の漢字の講座では、陰陽・漢字にまつわるお話、右と左があり、凹凸の筆順と画数について、右は縦から左は横から始める。凹凸は5画である。一か八かはいちかはちかが語源という話。また、1は天8は地、八卦よーいのこったのこったは天から地の8となる。韓国国旗で、周りの線は天月地太陽を象徴しているという話など大変面白かったです。(事務局)

高校生の唱歌

孫文記念館見学

移情閣まつり・交流会感想文

兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校

(3年　林　真帆)　今回は前回出させていただいた時と違った内容で、普段の学校での授業の風景を入れてみたり、中国語の歌を歌うだけでなく、みんなで考え、工夫した発表ができてとても良い経験になりました。今回歌った「大海啊，故乡」「ふるさと」(中国語訳詩)の2曲は、あまり練習をする時間がなく不安でしたが、お客さんがみんな一緒に歌ってくれて私たちもとても楽しく歌うことが出来ました。エルヴィス中野の歌もたっぷり聞けて良かったです。高校で第二外国語として中国語を学ぶ機会があったおかげでたくさんのことを経験させてもらいました。これから高校を卒業しても中国語は学び続けたいなと改めて思いました。

(3年　田中早紀)　私は高校に入って中国語を初めて学び、そして今回のイベントで初めて人前で中国語の歌を歌いました。歌を聞いた時、とても難しそうでちゃんと歌えるか不安でしたが、一緒に参加する友人や先生に教えてもらいながら練習しました。本番ではたくさんのお客さんがいて緊張しましたが、歌を知っているお客さんが一緒に歌ってくださってとても楽しかったです。このような行事に参加したことは、とても貴重な経験になり、より中国語を学びたいという気持ちが強くなりました。

(3年　福山夏音)　私は今回の移情閣まつり＆交流会に参加し、さらに中国語に興味を持ちました。たくさんの人の前で中国語で自己紹介したり中国語で歌を歌うのは、とても緊張しましたが、私の前で座っていた方が手拍子をして一緒に歌ってくださったり、微笑みかけてくださったりしたので、堂々と発表をすることができました。中国語に触れる、学ぶということがとても楽しく興味深いものだと改めて感じました。私は大学生になっても中国語を学び、将来に活かしたいと思っているので、今回参加できて本当によかったです。とても良い経験をありがとうございました。

(中国語講師　中野貞弘)　前回は、3つの高校から9人の参加でしたが、今回1つの高校から3人と3分の1になりました。夏から秋、たびたびの豪雨に影響で、臨時休校により授業時間が確保できなかったことが主な原因です。教科書に掲載された歌と普段の様子を紹介することならと積極的に協力してくれた生徒のおかげで高校中国語教育の一端を紹介出来たことを嬉しく思います。市内には神戸鈴蘭台高校の他に神戸商業、須磨友が丘、神戸甲北、葺合高校でも中国語が選択科目として学べます。しかし、中国語が消えてしまった学校もあります。これからの時代、より多くの高校生が隣国中国の言葉と文化に触れることが日本と中国の相互理解と発展につながることを信じて、引き続き努力していきたいと思います。

関帝廟普度勝会2018見学＆精進料理を楽しむ会

8月25日(土)　於 神戸関帝廟

関帝廟普度勝会林会長解説

普度勝会見学＆精進料理を楽しむ会は、今年で4回目の開催となります。例年の倍の38名が参加しました。はじめに、林同福会長による普度勝会についての解説を聞いて関帝廟境内をまわり、中国の先祖に祭祀する日本のお盆に当たる行事を見学しました。みんなで参拝のあと、円卓を囲み、美味しい精進料理を舌鼓打ちながら歓談しました。会員間や神戸華僑との親睦と交流を図ることができました。また、30日の謝宴には、神戸福建同郷会のお招きで、役員など9名が参加し、親睦と交流を深めることができました。(事務局)